

令和3年度 南部地区子ども支援 net アンケートまとめ

日 時：令和4年1月14日（金）13時30分～16時

実施方法：ZOOMによるオンライン開催

対象者：奄美大島南部地区（大和村、宇検村、瀬戸内町、住用地区）の教育、保育、行政関係者、奄美地区地域自立支援協議会子ども部会構成員（療育関係、相談支援事業所、その他）

参加者：34名

主 催：奄美地区地域自立支援協議会（5市町村）子ども部会

【感想】※回答者：14名

〇ミニ研修について

- ・良い養育者は「機嫌が良い養育者」という言葉が、印象的だった。
- ・子どもの「苦手」にばかり焦点が行きがちになるが、全体的にとらえて、子どもの「得意」に目をむけることや、前向きに取り組めるような働きかけの大切さを改めて感じた。
- ・子どもの「得意」を伸ばすことで、「不得意」を克服できるような、保育、支援をしていきたいと感じることができた。
- ・特性を持っていても、周囲の理解や環境を整えることで、困り感を減らせることや、自分で、気づき、工夫し、働きかけができるようになれば、子ども自身の世界が広がると思えた。
- ・自分の子育ても振り返る時間になった。
- ・幼児から青年期までの発達段階を知ることができ、勉強になった。
- ・教師の立場、親の立場両方から考えさせられる内容で勉強になった。
- ・年齢における適切な成長も考えながら、子どもに求めすぎないように成長を促していけるようになりたい。
- ・先生の話し方、内容がとても分かりやすかった。（2）

〇グループワークについて

- ・多職種の中で、活発な意見交換や助言が聞けて良かった。もっと時間が欲しかった（4）
- ・悩みが簡単に解決するわけではないが、似たような悩みを共有できたのは良かった。
- ・顔の見える関係を築く、きっかけになった。
- ・「できなさ」や「資源のなさ」ばかりに目を向けず、「ある資源」や「出来ること」に意識を向けていくことも大切だと感じることができた。（3）
- ・南部地区の状況を知ることができた。（2）
- ・狭い地域ならではの本音が言いにくい現状については、共感する場面があった。
- ・連携をとる時に、自分たちがどのような役割を担っているのか伝えていくことも大切と感じた。
- ・同じグループにいた相談機関からのアドバイスで、課題が一つ解決できた。
- ・初めてのオンラインでの参加で、緊張したが、いろいろな方と意見交換出来たのは、良い機会になった。

- ・地域の関係者以外の方々とも情報交換出来たのはとても良かった。
- ・テーマを絞って話したかった。

○地域の「障害児への支援や制度等」の課題や改善してほしいこと

- ・子どもに関わる人が多いのは良いことだが、その方たち（特に近親者）への理解について、温度差があると感じる。
- ・年数回の支援委員会以外でも情報交換、共有できる機会がもっとあるとよい。
- ・小さな地域では、まだ、「障がい」に対する理解の拡大が必要だと感じる。
- ・地域で、情報交換、共有できる機会がもっとあるとよい。
- ・共生社会への手立てが必要。
- ・学校に入学する前に、直接学校の担任と話す機会があればと思う事がある。（担任発表前で難しいと思うが）
- ・子ども達よりも、大人に障がいに関する理解を進める必要がある。
- ・親が障害について知る機会が少ないと思う。（健診の時などに学ぶ機会を作れないか）
- ・人材、資源、つなぎ方の共有が足りていなかったと感じた。今日の会議が、きっかけとなったので、大変意味深いものとなった。
- ・特別支援の先生方も相談できる場所が必要。
- ・相談機関が分からず、困る事が多い。
- ・学校、地域、保護者、支援団体のネットワークを整理する必要はないだろうか。

○今後開催してほしい研修等

- ・発達障害とゲーム依存等の2次障害への対応や相談窓口について
- ・支援の必要な児童生徒、保護者が集えるイベント
- ・奄美大島全体での子どもの支援の取り組みを意見交換する研修
- ・他県の取り組み事例などを知る研修
- ・家族支援の具体的な協議
- ・同じ職種同士での研修（専門職の交流会など）

○その他（ご意見、ご感想）

- ・様々な機関の方々とオンラインでも顔を合わせて情報交換できる貴重な機会だった。今後もこのような場があるとありがたい。